

平成23年度 鳥取県教育センター スーパーバイザー事業発表会(3)
教育セミナー「特別支援教育の実効性」実施報告

- 期 日 平成24年2月4日(土)
- 場 所 倉吉体育文化会館 中研修室
- 参加人数 22名
- 日程及び内容

時 間	内 容	講師・指導助言者
13:00~13:10	開会・スーパーバイザー事業概要説明	県教育センター 指導主事 笠見 隆志
13:10~14:10	研究発表 「特別支援教育の視点に立った中学校区の連携の在り方」～つなげる、かかわる10年特別支援教育をめざして～	(発表者) 鳥取市立河原あゆっこ園 副園長 富田 澄恵 鳥取市立散岐小学校 教諭 林 直樹 鳥取市立河原中学校 教諭 井上 明子 (指導助言) 環太平洋大学 教授 住本 克彦
14:20~16:15	講義及び演習 「よりよい支援会議をめざして」 【模擬支援会議】 【グループ討議・発表】 【指導助言】 「模擬支援会議とグループ討議のまとめ」	環太平洋大学 教授 住本 克彦 県教育センター 指導主事 梶川 節美 指導主事 中島 康太
16:15~16:30	まとめ・閉会	



○ 参加者の感想より

- ・河原中校区の先生方、発表お世話になりました。10年間を校区でつなぐ取り組みは本当に大切なことだと思います。日々の指導や授業にまでおとしこんだ連携の充実、個別の指導計画や個別の支援計画の活用を考えると、研究が進むとよいと感じました。
- ・私の勤務校でも小中一貫の取り組みを行なっているが、特別支援教育の視点で行なうことは、必ず生徒のためになることが実感できるような発表でたいへんためになりました。実践をどんどん進める中で課題をみつけ前進できるような小中一貫になればと思いました。
- ・発表においては組織づくりがどれだけ大切であるか実感した。つなげることで子どもに良い支援や教育ができるということが確認できた。
- ・実践報告、協議と実り多い研修に参加させていただき雪の中やってきたかいがありました。本校内でも支援会議をもっています。“あり方”を考える機会をいただきましたので、また明日から力を得て支援教育に取り組みます。ありがとうございました。
- ・「他人ごとと自分ごとにする」ということをポイントに母親(保護者)をねぎらったり、事前の打ち合わせを充実させたりしながら、支援会議の目的はAくんの困り感に対応していくことを意識してコーディネートしていくことが大切だと思いました。無理のない分かりやすい充実した研修であったと思います。ありがとうございました。
- ・コーディネーターとして助言者(参加者)として、留意しなければならないポイントが具体的につかめた。(プラス思考の発言、本人保護者の困り感を明確にする)「着地点」を明らかにした会議の大切さがわかった。話し合いの中では保護者へのねぎらいを忘れず、いっしょに支援していく関係づくりが大切だと思った。次回までの見通しを持つ(一回で欲張らない)、今すぐできそうな事を考える会にする、保護者の安心感につながる。具体的な内容だったので、考えやすく実践に活かせるような気になりました。よい機会を与えていただきありがとうございました。寸劇を入れた研修企画すばらしいです。とても参加しやすい形態でした。